

東京

大田区の技術

タイ進出を支援

区内の中小「集合工場」完成 企業向け

【バンコク＝大場司】

大田区からタイに進出する中小の製造企業の受け皿として、集合工場「オオタ・テクノ・パーク」が、バンコク郊外の工場団地内に完成。二十六日、開所式が行われた。世界に誇る「ものづくり」の生産・基盤技術を持つ大田区内の中小企業の進出を支援し、日本とタイの産業発展につなげるのが狙いだ。

区内には「大田ブランド」と呼ばれるほど優れた技術を持ち、自動車や電器などの産業を支える中小企業が多い。将来の生き残りや技術力アップには国際分業は不可欠ともいわれ、海外進出は大きな課題だ。



バンコク郊外に完成した「オオタ・テクノ・パーク」の工場内を視察する西野善雄・大田区長

集合工場は、区や大田区産業振興協会が、タイ有数の工業団地経営会社アマタコーポレーションと協力して実現。総敷地面積は約二万九千二百平方メートルあり、今回、工場棟と事務棟の計三千九百平方メートルが完成。今後、二

期、三期工事が予定されている。すでに特殊油圧シリンドアのメーカー一社が操業を始め、現在八社が進出を検討中だ。開所式には西野善雄区長のほか、タイ側からスリヤ副首相兼工業相らが

出席。西野区長は「大田区には研究熱心な企業が多い。タイに進出した企業が技術を共有し、相乗効果でより優れた製品の提供を目指してほしい」と述べた。

工場の賃貸料は二平方メートルあたり月約二百円(約六百元)と低価格で、進出企業は七年間の免税措置などの優遇が受けられる。工場団地内は日系大手企業が多く進出しており、製造部品などの直接納入も可能になる。